

新ごみ処理施設の外観カラーの選定に 関する考え方について

**令和8年2月
行田羽生資源環境組合
総務施設課**

1 趣旨

行田羽生資源環境組合では、行田市及び羽生市から排出される一般廃棄物を適正に処理するため、新たなごみ処理施設の整備を進めております。

本施設整備については、昨年9月に令和10年からの施設の維持管理を含めた契約を締結し、基本的な施設計画や外観イメージについて公表してまいりました。

また、現在は施設の機能性・維持管理性・配置・周辺環境との調和などについて、より具体的な検討を進めております。その過程において、建設工事請負事業者から、外観カラーについて改めて調整・検討する提案がありました。

外観カラーは、施設の機能や処理能力に直接影響するものではありませんが、完成後は長期にわたり地域の景観の一部となり、構成市民の皆様にとって身近な公共施設として認識される重要な要素であると考えております。

そこで、本組合では、設計段階における検討内容の一つである、施設の外観カラーの考え方について、広く構成市民の皆様のご意見を伺うことが望ましいと判断し、意見募集を実施するものです。なお、今回の外観カラーについては、あくまでもベースのカラーの選定となります。

2 外観カラーに関する基本的な考え方

本組合では、新ごみ処理施設の外観カラーについて、次のような観点を踏まえ、検討を行いました。なお、本検討内容はあくまでも、本施設建設予定で整備を行った場合の考え方となります。

(1) 選定カラー

カラー	カラーイメージ	使用事例のある立地条件
イエロー系	実り豊かな稻生をイメージした温かみのある配色	平野部の郊外
グリーン系	青々と茂る稻の生命力をイメージした力強い配色	中山間地域
ブルー系	水田に張られた清らかな水面や河川をイメージした爽やかな配色	平野部の市街地

※各カラーのイメージ図は別紙のとおりです。

(2) 判断基準

① 景観調和性

周辺は稻作が盛んな地域であることから、彩度や明度などを含め周辺環境と調和のとれた外観とすることが重要です。

② 温かみがあり、親しみやすい印象

ごみ処理施設は、日常生活を支える重要なインフラであり、構成市民の皆様が直接ごみを持ち込むことがあるため、公共施設として親しみやすい印象とすることが重要です。

③ 公共施設としての分かりやすさ・視認性

ごみ処理施設は、防災拠点の役割などもあることから、一定程度の視認性を確保することが重要です。

④ 維持管理性

ごみ処理施設は長期間にわたり使用するため、経年変化による印象や、日々の汚れが目立つにくいことが重要です。

⑤ 安全性

ごみ処理施設場内を通行する際に、施設への接触の危険性などが低い配色とすることが重要です。

(3) カラーごとのメリット・デメリット

色	メリット	デメリット
イエロー系	<ul style="list-style-type: none">周辺の田園景観を阻害しない一定程度の視認性の確保が可能である。明るく温かみがあり、公共施設として親しみやすい印象を与える。周辺景観との調和がとれている。	<ul style="list-style-type: none">他に比べ紫外線による退色が早い(適切な色調の選定により対応可能)。
グリーン系	<ul style="list-style-type: none">自然を連想させ安心感のある印象を与えることができる。落ち着いた色調で、経年による印象変化が比較的少ない。	<ul style="list-style-type: none">植栽や農地と同化しやすく、施設の位置や輪郭が分かりにくくなる場合がある。紫外線による退色は中程度だが、劣化感が強く見えることがある。イエローに比べ、土埃等の日々の汚れが目立つ可能性がある。
ブルー系	<ul style="list-style-type: none">爽やかで衛生的な印象を与える。圧迫感が少ない。	<ul style="list-style-type: none">背景の空に溶け込みやすく他のカラーと比較をすると視認性が低い。冷たく無機質な印象となり、心理的な距離を感じさせる場合がある。色褪せが目立つ場合があり、維持管理に配慮が必要となる。

(4) 総合評価表 (◎、○、△)

色	景観調和性	親しみやすさ	視認性	維持管理性	安全性
イエロー系	◎	◎	◎	○	○
グリーン系	◎	○	○	○	△
ブルー系	○	○	△	△	△

◎…特に適している ○…適している △…一定の配慮や工夫が必要であると考える

3 総合的な考え方

以上の観点から比較検討の結果、周辺の田園風景に広がる稲穂との親和性の高さや、温かみがあり親しみやすいイメージを与えること、また、本施設整備が平地の郊外であることを踏まえ、イエロー系を基本とすることが適當であると考えます。

なお、イエロー系を採用する場合においても、単色や過度に鮮やかな色とするものではなく、落ち着きのある色調とすることを前提としております。